

回復鈍い東南アジア自動車市場

2015.8.3 発行

円安で業績は回復したものの・・・

自動車各社の業績は、円安効果もあって回復してきました。リーマンショック後、北米自動車市場の回復、各国の買い替えのための補助金、新興国自動車市場の成長が、業績回復の要因となりました。しかし、2015年の各地域の市場を俯瞰してみますと、過去5年のトレンドとは様相が違っています。

北米自動車市場は回復し、過去最高水準に近づきつつあります。欧州は長い低迷からようやく回復し、ロシアの減少はあっても西欧の増加でカバーできそうです。一方、これまで日本メーカーの収益源の一つであった東南アジア市場が芳しくありません。

通貨安に端を発する景気悪化のインドネシア

インドネシアの自動車市場は、2014年で約120万台となっています。2010年には80万台弱の市場規模でしたので、近年急速に成長しています。3列シートのミニバン、MPVが特に人気です。2014年の新車販売シェアは、トヨタ33%、ダイハツ15%、ホンダとスズキが13%で続きます。インドネシアでは二輪車も大変多く販売されています。2014年で780万台強販売され、日本のホンダ、ヤマハ発動機の2社でシェア90%を超えています。

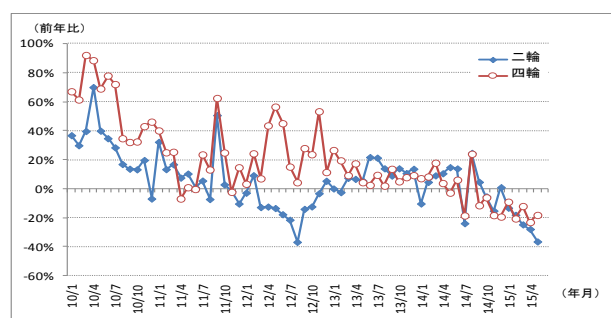
図表1は、同市場の二輪車、四輪車の販売状況を示しています。2012年には高い伸びを示していた四輪販売も、2013年には伸び率が低下し、14年

後半からは、二輪、四輪ともに前年割れが常態化するようになりました。

2014年10月にはジョコウィ新政権が誕生し、補助金付きだったガソリンや軽油の価格を値上げして、補助金を削減し、削減分をインフラ投資等に回す政策を実施しています。しかし、米金融緩和の終息観測、資源需要の低迷などからインドネシアピアの下落や金利上昇を招いて、景気は停滞しているようです。

ホンダ、スズキ、日産の新車投入、6月には頭金規制の緩和など、てこ入れ策も図られているのですが、自動車販売台数は、2014年比横ばい予想から10万台程度下回る予想に引き下げられました。回復にはしばらく時間を要するようです。

(図表1) インドネシアの二輪、四輪販売台数の伸び率推移



出所: GAIKINDO 資料より明治安田アセットマネジメント
作成

当資料は、ホームページ閲覧者の理解と利便性向上に資するための情報提供を目的としたものであり、投資勧誘や売買推奨を目的とするものではありません。また、当サイトの内容については、当社が信頼できると判断した情報および資料等に基づいておりましたが、その情報の正確性、完全性等を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねます。

明治安田アセットマネジメント株式会社

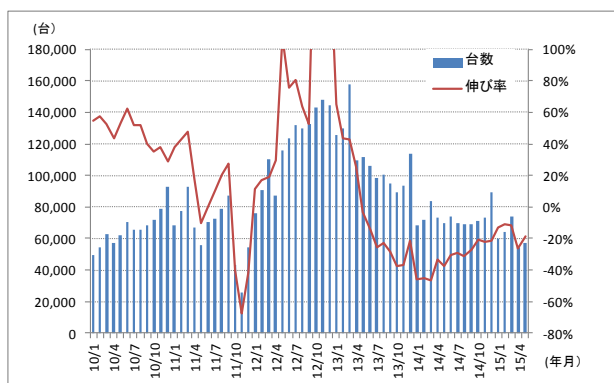
低迷が長引くタイ市場

タイ自動車市場の特徴は、ピックアップトラックの人氣が高く、新車販売の40%以上を占めることです。

リーマンショック後、2012年に自家用車の初回購入支援策が実施され、タイ国内の自動車販売台数は大きく伸びました。2010年、2011年と80万台程度の市場規模が、143万台まで拡大、2013年も133万台と高水準でした。

しかし、反政府デモなどの政治的混乱から、2014年5月には軍部によるクーデターが起きました。現在は民政移管への過渡期で、経済的には低迷し、2014年は88万台と大きく落ち込みました。

(図表2) タイの月次自動車販売台数推移



出所: Toyota Motor Thailand 資料より明治安田アセットマネジメント作成

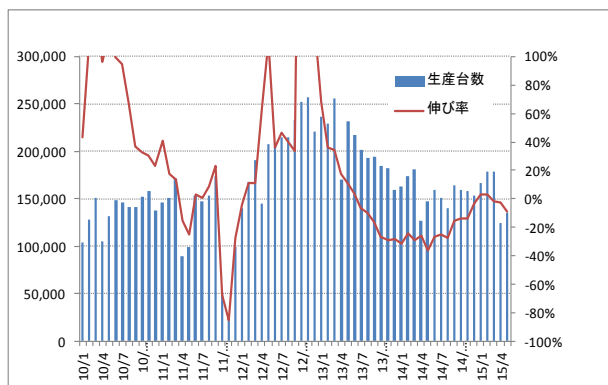
図表2は、同国の月次の自動車販売の推移です。2014年前半は、30~40%台後半の減少が続き、後半から減少率は徐々に縮小しつつありますが、まだマイナス圏を脱してはいません。初回購入支援策による先食い、経済の低迷、家計の負債の高水準化、農家に対する米担保融資の終了で収入が減少したこと、などの要因が挙げられます。

乗用車やピックアップトラックの販売は冴えませんが、景気対策として、公共投資の執行に期待が集まっ

ています。そのため、いすゞ自動車や日野自動車の商用トラックは、2015年に入って、前年比増加の月も出ており、一足早い回復がみられます。

タイは、一大自動車生産拠点となっており、タイ国内だけでなく、東南アジア、中近東、豪州へと輸出されています。図表3は生産台数の推移ですが、タイ国内販売の低迷分は輸出に振り向けられているため、生産は販売台数ほど落ち込んではいません。

(図表3) タイの月次生産台数推移



出所: The Federation of Thai Industries 資料より
明治安田アセットマネジメント作成

ピックアップトラックの新車に期待

景気対策ばかりに自動車販売の回復を頼るわけにはいきません。輸出に振り向けるにも限界があります。各社の新車投入は、販売回復のきっかけとなるでしょう。昨年来、日系メーカーによるピックアップの新車ラッシュになっています。日産の Navara、三菱 Triton、トヨタ Hilux が投入され、年後半にはマツダ BT-50 の投入が予定されています。

インドネシアもタイも、景気対策や新車投入の活発化で回復待ちの状況です。

調査部 シニア・リサーチ・アナリスト
(自動車、機械担当)
北山 信次

当資料は、ホームページ閲覧者の理解と利便性向上に資するための情報提供を目的としたものであり、投資勧誘や売買推奨を目的とするものではありません。また、当サイトの内容については、当社が信頼できると判断した情報および資料等に基づいておりますが、その情報の正確性、完全性等を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねます。

明治安田アセットマネジメント株式会社